小麦新品種「びわほなみ」への円滑な転換による収量・品質の向上

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

大津・南部地域（以下、当地域）の小麦作付面積は1,300ha を超えているものの、H30～R2年産の当地域の平均収量は350kg/10aと全国平均419kg/10aと比べて低い状況でした。また、当地域主力品種「農林61号」は品質の年次間変動が大きいことが課題でした。そこで、当地域小麦生産者を対象に「農林61号」から多収で安定した品質が見込める「びわほなみ」（以下、新品種）へ円滑に品種転換が進むよう支援しました。

写真１ 新品種播種前研修会の様子

【普及活動の内容】

新品種は収量性・製めん適性に優れ、短稈で倒伏しにくいなどのメリットがある一方、早播きすると凍霜害などに遭いやすいことや赤かび病に弱いこと、子実タンパク含有率が低下しやすいことなど栽培上注意すべき品種特性がありました。このため、当センターは品種の短所を補いつつ、長所を活かし、関係機関・農業者が納得して品種転換が進むよう活動しました。

（1）先進地視察・研修会の開催

関係機関と共に先進地である東近江地域を視察し、栽培方法や赤かび病の防除体系等を確認し、不安の払しょくを図りました。また、室内研修会を開催し、当地域で初めて作付けされた栗東市の令和4年産の新品種の生育状況や今後の栽培方針を説明しました。

（2）実証ほの設置

生育後半に重点を置いた施肥体系の実証ほを設置し、関係機関と共に生育調査し、当地域の栽培状況に沿う施肥体系の確立を目指しました。

（3）赤かび病の防除体制の構築

関係機関と協議の場を設け、「本品種は赤かび病防除2回が必須で、県病害虫防除所より注意報や警報が発令された場合に追加防除を行う」という共通の認識を持つことができるよう活動を行いました。

表1 小麦「農林 61 号」と「びわほなみ」の経営試算表

	「農林61号」	「びわほなみ」
収入（A）	72,615	120,422
支出（B）	28,917	44,471
所得（C）＝（A）－（B）	43,698	75,951

※農業者の聞き取りより作成
※令和3年産「農林61号」と令和4年産「びわほなみ」を比較
※収入に販売代金と畑作物の直接支払交付金、水田活用直接支払交付金、産地交付金を含む
※支出に種苗費、肥料代、防除費、乾燥・調製費等を含む
※消費税、施設・農機具代などの減価償却費を含まない

【普及活動の成果】

活動の結果、栗東市全体の実収は451kg/10a と大幅に増収し、品質についても全量1等Aランクと最高ランクになりました。また、試算表（表 1）のとおり、品種転換することで、約 32,000 円/10a の所得向上が見込めることを実証しました。

◎対象者の意見

新品種へ転換し、初めて概算金プラスになりました。品種転換して良かったです。（生産者）